

温室効果ガス「排出抑制等指針」に関する専用ホームページについて

1. 専用ホームページの開設について

排出抑制等指針の普及を図り、事業者の事業活動における温室効果ガスの排出抑制を進めるため、本指針の趣旨や本指針に掲げられた対策メニュー（事業活動に用いる設備に関して、温室効果ガスの排出抑制に資する設備の選択や使用方法など）を分かりやすく解説した専用ホームページを、2009年12月18日に開設した（アドレス：<http://ghg-guideline.env.go.jp/>）。

2. 専用ホームページの概要

本ホームページは、以下の3つの内容から構成されている。

(1) 指針の概要

本指針の概要を示している。

(2) 対策メニューの解説

本指針に掲げられた対策メニューについて、対策の目的、対策の概要、実施上の留意点、導入効果などを図表を交えながら解説している。（p.2にイメージを示す）

(3) 総合評価

本指針に掲げられた対策メニューをご自分の事業所でどの程度実施しているのか、指針で定められた総合評価の手法に則り、自己採点を行うことができる。また、自らの事業所と同種の事業所の実施状況を比較することができるほか、自らの事業所において更に取り得る対策についてのアドバイスを受けることができる。（p.3にイメージを示す）

3. 今後の更新内容（予定）

(1) 業務部門に関する内容の追加、更新

- ・事業者のさらなる対策を促すため、対策メニューの解説を適宜追加、更新する。
特に、専門技術や大きなコストを必要としない簡易な対策に関する解説を重点的に追加、更新する。
- ・対策メニューのリストから、簡易な対策を効率的に抽出する絞り込み機能を追加する。

(2) 家庭部門に関するページの構築

- ・家庭部門における対策を促すため、一般消費者を対象としたページを新規に構築する。
- ・内容は、対策メニューの解説を中心とし、一般消費者でも取り組みやすい簡易な表現とする。

(2) 廃棄物部門に関するページの構築

- ・今後公表が予定されている廃棄物部門の指針に関するページを新規に構築する。

対策内容の詳細

(1) 温室効果ガスの排出の抑制等に資する設備の選択

ア 熱源設備・熱搬送設備

大温度差送風・送水システムの導入

対策の目的

- 一般的に、ファン・ポンプのエネルギー消費は、オフィスビルの全エネルギー消費の約1/4を占めている。このため、省エネやCO2排出の削減を進めるためには、搬送エネルギーの低減が重要となる。
- 水を循環させて熱を搬送させる場合、冷水の行きと還り温度の差と流量は反比例の関係にある。このため、行き・還り温度差を大きく取り、送水量を低減するなどの大温度差システムを導入し、搬送する水の流量や空気の風量を低減させることにより、搬送設備のエネルギー消費量やCO2排出量の削減を図る。

対策の概要

- 大温度差システムは、空調空気の吹き出し温度差、熱媒が水の場合の放熱器・冷温水コイル・冷凍機蒸発器・凝縮器の出入口温度差を大きくとり、流量を減らして換気ファンや循環ポンプの搬送動力の削減を図るものである。能力＝流量×温度差となるため、温度差と流量は反比例の関係となり、温度差を大きく取れば、流量が少なくなり搬送動力エネルギーが削減できる。

○ 大温度差送水システム

冷水の行きと還り温度の差を通常のシステム ($\Delta t=5^{\circ}\text{C}$) に比べて大きくする ($\Delta t=7^{\circ}\text{C}$ 以上) ことにより送水量を低減し、ポンプにかかる搬送動力を削減するシステムであり、熱源の変更、空調機コイルの変更を行う。

○ 大温度差送風システム

空調吹出温度を従来システム ($\Delta t=10^{\circ}\text{C}$) に比べて送風温度を下げる ($\Delta t=13\sim 15^{\circ}\text{C}$) ことにより送風量を低減し、送風ファンにかかる搬送動力を削減するシステムであり、空調機コイルの変更を行う。また、湿度を下げることで温度を上げることも可能となる。

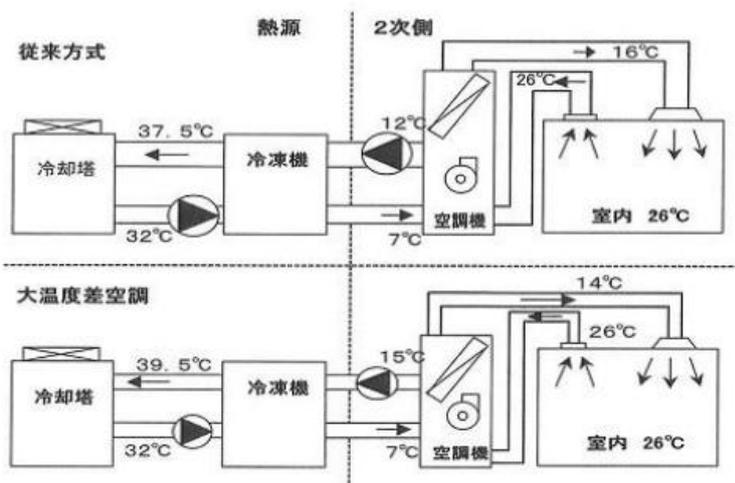


図1 大温度差送水システムの導入イメージ

総合評価の採点結果（イメージ）

採点結果

回数	実施日	A: 適用対策点	B: 対策実施点	総合評価点 (A÷B)×100
88	2009/10/29	26.00	15.25	58.65
87	2009/10/27	26.00	15.25	58.65
86	2009/10/22	26.00	15.25	58.65
85	2009/10/22	26.00	15.25	58.65
84	2009/10/21	26.00	15.25	58.65

以下省略(直近の5回のみ表示します)

対策実施状況(全体)

このグラフは、各対策項目における今までの回答者の対策実施状況の分布を表します。色の濃い部分は、あなたの回答結果です。

■ 適用可能な箇所こますべて実施
 ■ 部分的に実施
 ■ 実施していない
 ■ 対策実施不可
 ■ 無回答

